

(仮称) 等々力大橋について

1. 等々力大橋の概要

(1) 多摩川に架かる新橋の整備

東京都心から放射状に伸びる幹線道路は、国道1号（放射1号線）や中原街道（放射2号線）、国道246号（放射4号線）などが、多摩川を渡る一般道路として整備され、京浜間の人流や物流などを支える重要な交通基盤となっています。

こうした中、放射3号線の目黒通りについても、多摩川を超え、神奈川県域とのネットワーク化が求められており、都心アクセスの向上や都市間連携強化のために、都市計画道路宮内新横浜線の整備とともに、多摩川に架かる新橋の整備が必要となっています。



(2) 等々力大橋の概要

橋の概要：橋長：約400m
 都市計画幅員：22m（4車線）
 事業主体：東京都・川崎市（費用は、各々1/2負担）
 施行主体：東京都

(3) これまでの経過

- 昭和63年 東京都市計画道路放射3号線 都市計画変更（多摩川渡河の計画決定）
- 平成2年 放射3号線の事業化（環状八号線～多摩堤通り）
- 平成19年 放射3号線の暫定整備完了（橋梁取付部を除く道路完成）
- 平成22年 川崎都市計画道路宮内新横浜線 都市計画変更（多摩川渡河部の計画決定）
等々力大橋の整備に関する基本協定締結・事業化
- 平成23年 都市計画道路宮内新横浜線の事業化（多摩沿線道路～国道409号）以降、等々力大橋については、これまで測量、環境調査、基本設計などを実施

(4) 整備効果

- 新たな交通ネットワークの形成
- 都市間の連携強化
- 多摩川渡河交通の整序化による交通の円滑化
- 防災性・利便性の向上



これは、イメージ図ですので、詳細設計時に変更することもあります。

2. 現在の状況と今後について

現在の状況

等々力大橋につきましては、今年度中の着工を目指し取り組んでまいりましたが、環境調査や河川管理者をはじめとする関係機関との協議調整に時間を要しているため、今年度中の施行協定の締結や着工は見合わせる事となりました。

今後について

次年度の着工に向け、現在、東京都とともに関係機関と協議調整を進めており、事業費や施行期間などを定める施行協定は、来年秋頃を目途に締結する予定です。完成時期につきましても、協議が整い次第お示しできるよう取り組んでまいります。

【参考】 多摩川に架かる近年の架橋の事例

橋名	橋長	幅員	施行者	総事業費	施行期間
多摩水道橋	358.8m	20.5m（4車線）	東京都	約135億円	平成元年～平成13年
丸子橋	405.6m	25.0m（4車線）	東京都	約142億円	平成4年～平成14年
大師橋	550.0m	29.5m（6車線）	川崎市	約370億円	平成3年～平成18年

